

【目次】

- チーム学校の心強い仲間－教育相談の専門スタッフ－
- 児童生徒の身の回りに潜む“危険”

---

□チーム学校の心強い仲間－教育相談の専門スタッフ－

---

●チーム学校の心強い仲間－教育相談の専門スタッフ－

1学期も残すところあと1ヶ月ほどとなりました。児童生徒は元気に学校生活を過ごしているでしょうか。特に大きな環境変化を経験した中学、高校1年生には学期末に向けて個人面談等を行い、悩みや問題を抱えていないか把握したいものです。気になる児童生徒の情報は共有し、SCやSSW等専門スタッフを交えて対応しましょう。そうすることで、夏休み以降の自死等重大事態や問題行動の未然防止につながります。

●スクールカウンセラー（SC）ってこんな仕事

スクールカウンセラーは、問題を抱える児童生徒やその保護者の心理的内面への働きかけを行う心の専門家です。心理療法に基づく助言・治療による個人の変容を目指します。

●スクールソーシャルワーカー（SSW）ってこんな仕事

スクールソーシャルワーカーは、児童生徒や保護者が置かれた環境へ働きかけを行う福祉の専門家です。社会福祉の知見による助言、関係機関への橋渡し等によって環境の改善を目指します。

●SC・SSW、どちらに相談？

専門性の違いを理解した上で相談することで、迅速に適切な対応ができます。基本的には、児童生徒をケアすれば前進しそうな場合はSCに、社会的・家庭的状況の改善が必要な場合はSSWにと、教育相談コーディネーターを窓口にして相談しましょう。

※「スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン」（学校安全・安心支援課ホームページ）内の、SSWに対応を要請する目安（チェックリスト）を参考にして下さい。

---

□児童生徒の身の回りに潜む“危険”

---

●通学路に潜む“危険”

5月に新潟市で女儿殺害事件が発生しました。不審者対策には「いかのおすし」（いかない・のらない・おおきな声をだす・すぐにげる・しらせる）などの防犯教育を徹底しましょう。また、天保府では地震発生によりブロック塀が倒れ、児童・高齢者が下敷きになり死亡しています。「あぶないブロック塀」（下記参照）を参考に点検を実施して、可能な限り離れて通るなどの指導をしましょう。

※「あぶないブロック塀とは」（一般社団法人 全国建築コンクリートブロック工業会）

URL⇒ <http://www.jcba-jp.com/daijiten/c03/index.html>

●交通事故に潜む“危険”

交通事故に遭っても被害が無いからと児童生徒が警察に連絡をしていないことがあります。被害者となった場合の対応として、①自転車事故であっても必ず警察に連絡すること、②その時に痛みがなくても念のため医療機関を受診することを指導してください。

●楽しい水泳も“危険”と隣り合わせ

水泳事故は重大事故に繋がります。排水口やプールサイドの安全点検は万全ですか？高校2年生未満は全面的に飛び込み禁止です。監視者は監視台等高い位置からプール全体を見渡すことが重要です。そして、水面上はもちろん、水底にも視線を向けることも必要です。また、水泳事故に備え①救急体制の確認、②AEDの保管場所や手順の確認、③心肺蘇生の研修・訓練を行いましょう。

---

※過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

→ <http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課

URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>